

ある日の新聞に、次のような子ども  
の詩が掲載されていました。

「ものすごく寒い日、学校の帰り  
道で紫色の花を見つけた。あっ、  
もうスミシの花が咲いている。僕  
はうれしくなった。そのスミシの  
花をとって、走って帰った。戸を  
開けるなり『母ちゃん、見てごら  
んよ』とスミシの花をさし出した。  
そしたら母ちゃんが『？』と言っ  
た。

さて、このあと母親は子どもに  
何と言ったのでしょうか。「何がス  
ミシよ、スミシなんかより早く宿  
題を済ませなさい」と親に受け止  
めてほしい子どもの気持ちをうる  
さがって、おざなりな対応をする  
場合と、差し出されたスミシを手  
に取り「うわあ、きれいなスミシ  
ね、ありがとう」と言って、親子  
でスミシを見つめながら」とこに

咲いていたの」「よく見つけたね」  
などと会話が弾む場合が考えられま  
す。この対応の違いで、子どもへの  
響き方が変わってきます。後者の場  
合、子どもはお母さんが喜んでくれ  
てよかったという満足感と充足感で  
満たされ、加えて自己肯定感や自尊  
感情が芽生え、人権感覚を備えた大  
人へと成長することができるとしよ  
う。

この詩の最後には「母ちゃんが  
『スミシぐらいで大きな声を出すな』  
と顔をしかめていった。ぼく、なん  
にもする気がなくなった」と書かれ  
ていました。

家庭生活での何気ないやり取りの  
中で、子どもの心の表出を親がどう  
受け止めるかで、子どもの心の成長  
に大きな影響を及ぼすことがあります。  
年齢にかかわらず誰でも、自分  
の気持ちを受け止めてもらえたとき、

一人の人間として大切にされていると感  
じるそうです。子どもたちに「大事にさ  
れた」経験をできるだけ多くさせたいも  
のですね。

